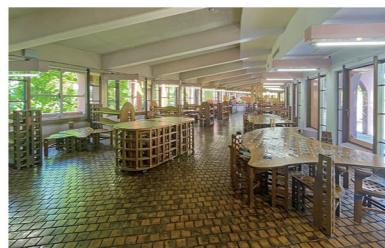


まちの皆様インタビュー！

進修館に勤務していると「この建物って、どうしてこんな形をしているんだろう？」「つくられたときって、設計者とどんなやり取りをしていたんだろう？」など、ふと考えるときがあります。今回は、進修館の建設工事が行われた当時、宮代町役場職員として現場に立ち会い、設計者ともやり取りをしていた田沼繁雄さんにお話を伺いました。

【役場職員として進修館に縁が繋がる】

田沼さんは幸手市で生まれ育ち、現在のお住まいも幸手市内です。通っていた高校に宮代町の人が入り出していたのが縁で、宮代町役場へに入庁することになり、都市計画にかかわる部署に配属された田沼さんでしたが、専門外の分野だったため、就業時間後に土木関係の専門学校通ったそうです。学校には様々な職業の人が集まっており、「勉強もだけど、そこに来ている人から聞くいろいろな分野の話が面白かったし、視野や人間関係が広がった」と話してくださいました。しばらくすると宮代町役場に別館として現在の進修館を建設する話が進み、その担当者として配属され進修館と縁が繋がりました。建築のことは全く分からなかった田沼さんでしたが、仕事が終わってからの時間をを使って日本工業大学の購買で専門書を購入して独学し、業務に臨みました。余談ですが、当時の宮代町役場職員の就業時間は8:30～16:30と、現在よりも早く終わるようになっており、仕事が終わってからの時間を有意義に活用するこ



田沼さんが「進修館で一番好きな場所」に選んだのはロビーでした。開館当時から人が集まり、和やかな風景が日常となっていたそうです。

とができたそうです。「自分は学校に行ったりしたけど、家庭の仕事を手伝うこともできたから、働きやすかったと思うよ」とのこと。この就業時間帯を採用していたのは宮代町独自の取り組みだったそうです。

【進修館の建設に関わって】

進修館の建設が始まると、田沼さんは現場に掛かりきりになります。設計者である象設計集団のメンバーや、建築関連業者とのやり取りに同席しつつ、役場としての手続きを円滑に進めるのが田沼さんの役目です。進修館の設計への思いが深い設計者たちと長時間話し合い、いっしょにつくりあげてく現場だったとのこと、熱い議論が交わされることもしばしばだったようです。「現場に泊まり込むようなこともよくあったけれど、今考えると楽しかったよなあ。」と懐かしんでおられました。現場に建てられた事務所の会議室に大勢が集まり、侃々諤々話し合う日々。そしてそれがだんだん形になっていく様子を現場で体感された田沼さんは、進修館には様々に設計者たちの思いが表現されていることをご存じです。例えば小ホールにある議場の椅子のデザインは、天井の高さとのバランスを考えて何度も手直しをされているそうです。町議会の議場を設えた際、小ホールの空間が映えるように、綿密に計算されて作られていることを教えていただきました。

【進修館でどこが好き？】

進修館の誕生を見守ってきた田沼さんに「進修館で一番好きな場所はどこですか？」



田沼さんと館内を回っていた際、唯一ご存じなかったのが床面に残されたネコの足跡。この足跡にまつわる(かもしれない)エピソードがあるようです。

このコーナーでは、宮代町に在住・在勤・在学など宮代町に関わる方々にお話を伺っています。



宮代町役場を退職後は、地元幸手市で畑仕事を楽しんでいる田沼さん。近隣の子供達に畑での収穫を楽しませるなど、地域での活動もしているそうです。

とお尋ねしたところ、「う〜ん。どこだろう。」と考え込んでしまいました。設計者や建築関係者の思いや苦労が詰まっていることを知っている田沼さんだからこそ、「ここ」という場所を選ぶことは難しいのかもしれない、とその時はそこで話を終えました。後日、来館された田沼さんから「進修館の一番好きな場所のことを、あの後ずっと考えていたんだよ。」と切り出されました。そして「やっぱり、ロビーだね。あのゆったりとした空間は、いいよね。」と話してくださいました。

進修館の誕生に関わった田沼さんは、施設を管理している私たちでも知りえないことをたくさんご存じでした。これからも進修館を大切にしていくためにも、今後いろいろなことを教えていただきたい！と思ったインタビューでした。

みやしろ公園 再発見！

宮代町内にはほところころに小さな公園があります。お散歩や子育てに。あなたの知らない公園を再発見！

◆ 中須ファミリー公園

公園情報 [中須ファミリー公園]

住所：中島88-1
遊具：滑り台、ブランコ
休憩：ベンチ・水道あり、トイレなし
備考：近所にコンビニあり



左側は春日部久喜線



キレイに手入れされています。



ブランコと波打つ滑り台



水道は水飲み場つき



春日部久喜線（県道85号線）沿いにある公園。県道側には垣根があり、お子さんの飛び出し防止の役割を担っています。ただしボール遊びは厳禁。ブランコは波形になっていて、ちょっと楽しそう。裏手は美しい田園風景なので、サイクリングがてら立ち寄ってみるといいかも。

季節のリズムに合わせた養生ライフ♪

7月の養生

二十四節気では、6月21日～7月5日夏至（げし）、続いて7月6日～小暑（しょうしょ）、7月22日～大暑（たいしょ）と続きます。小暑は、梅雨が明け暑さが本格的になる頃。大暑は、夏の暑さが最も厳しく感じられる頃。夕立ちや雷も多く、気温もどんどん上がっていきます。高温多湿の日本の夏は湿気が多く、近年40℃近くまで気温があがることも増えました。こうした気象の変化により、水分摂取やエアコンの活用が現代版の養生の肝となります。

※ 東洋医学の基となる五行学説では「春=肝・夏=心・長夏=脾・秋=肺・冬=腎」のように、それぞれの臓器が属する季節（五季）があり、該当する臓器に症状などが出やすいとされています。

《養生ライフ》

この時期の養生は、「夜遅く寝ることがあっても、朝は早く起き、暑さを嫌がらず、物事に怒らずに気持ちよく過ごすべき」と古典に書かれているようです。古典と現代の養生をまとめると…

- ・エアコンの温度調節
 - ・適度な運動でリラックス
 - ・こまめな(ミネラルを含む)水分補給
 - ・早起き
 - ・冷たい物や脂っこい物、甘い物をほどほどにし、胃腸への負担を少なくする
- といった感じです。昨今の猛暑と上手に付き合える身体を作っていきましょう♪

《おすすめ食材》

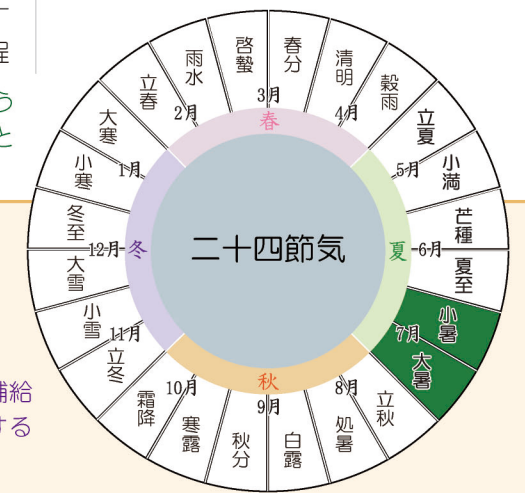
熱を取る	ゴーヤ、きゅうり、トマト、なす、緑豆もやし、スイカ、パイナップル、豆腐、いんげん豆
血流をよくする	アジ、イワシ、玉ねぎ、ししとう、ピーマン、蕎麦、酢
体を潤す	トマト、もも、スイカ、きゅうり、冬瓜、豚肉、豆腐、梅干し、はちみつ、ヨーグルト
心を養う	ハツ、トマト、梅干し、スイカ、小豆、ひじき、紅茶
元氣をつける	豚肉、牛肉、鶏肉、卵、納豆、あなご、たこ、はちみつ

このコーナーでは、季節それぞれにあった健康法を紹介していきます！

かつては大事にされていたはずの予防を重要視する「養生」という考え方。「食事・運動・休養」のよき習慣を続け、よくない習慣は減らす。意外と普遍的で「あたりまえ」のこと。この「あたりまえ」を大事にするのも「養生」。このコーナーは、二十四節気(春夏秋冬をそれぞれ6つに分けたもの)にそって健やかに過ごす生活の知恵を紹介しているコーナーです。

東洋医学的には、夏は五臓の「心(しん)」*に負荷がかかりやすい時期です。心は臓器としての心臓の動きも含まれます。大量の発汗に伴い体の水分が失われてしまうと血液が凝縮し、心臓にも大きな負担がかかります。かといって水分補給に冷たい水ががぶ飲みしてしまうと胃が冷やされ、消化吸収の動きをコントロールする五臓「脾(ひ)」の動きが低下することになります。大切な水分摂取ですが、冷えたものを一度に大量に飲むということは避け、常温程

度の水分(ミネラルを含むもの)をゆっくり少しずつ摂るのがお勧めです。エアコンは寒暖差が激しくなると自律神経のバランスを崩し、体調不良を招きやすくなるため、高めの温度設定を意識。理想は、室内外の温度差を7℃以内に留めたいところ。また、朝夕など時間帯を考慮して軽めの運動を心がけ、こまめな水分(ミネラルを含むもの)補給を忘れないようにしましょう。



8月号から新コーナーが始まります！

教えて、田沼さん！「進修館のあんなこと、こんなこと」

お話を伺った田沼繁雄さんは、進修館建設に関する様々なことを、実にたくさんご存じでした。そこで、施設管理者も知らない様々なお話をご紹介します新コーナーを来月号からスタートします！進修館が建てられたころの様子や設計者たちとのエピソードなど、どんなお話が出てくるのか、編集部もワクワクしています。どうぞお楽しみに。

